

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703238		
法人名	(有) ミラクル		
事業所名	グループホーム この葉		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区三ツ頭2丁目15-10 (電話) 093-691-8858		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月22日	評価確定日	平成21年12月8日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5, 4 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1050 円	

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 71 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高嶋クリニック・若戸病院・有吉歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームこの葉」は看護師である管理者夫妻が、重度認知症や医療行為を伴う入居者が、居場所を変わることなく、最期まで生活が続けられるように支援していきたいとの思いから生まれたホームである。開設4年目を迎え、数名の方々の看取りを経験し、今後も変わらぬ思いでケアを続けたいと話される。医療ケアが必要な方も入居され、重度化が進む中で、職員は入居者が何を望むのかをいつも考えながらケアに臨んでいる。気持ちを表現できない方には、一緒に歩きそっと寄り添うケアを行い、差し出された入居者の手を握り返す喜びを感じている。地域とは年々関係が構築できており、さりげない地域の方々の協力がありがたい。重度化や看取りの支援に正面から取り組み、看護の力・介護の力を充分に発揮しながら日々のケアに臨んでいる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画のアセスメントについての提案事項が示されており、センター方式の利用を一度検討している。内容が深いと判断しておりこれからも継続していく課題だと捉えている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の意見を集約する形で、管理者が自己評価をまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議ではホームの利用状況・生活状況が中心となり話し合いが行われている。看護学生の受け入れや法人合同の敬老会なども議題としてあがっている。家族・地域代表・地域包括支援センター等の参加があり、活発な意見交換がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	以前職員の名前がわかりにくいとの意見があり、名札を下げたがケアに支障があり、玄関に写真と名前を掲示している。毎月の支払い時に来訪があり、その機会を活用して意見を聴けるように努めており、意見を運営推進会議につなげることもある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方が、ホームの畑で野菜作りを手伝ってくれたり、ホームの犬を散歩に連れ出してくれる。町内会に加入し、草取りや清掃活動等の地域活動に入居者とともに参加していたが、現在は職員のみでの参加となっている。散歩の際など地域の方々との自然な交流を大切にしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「決まった流れにとらわれず ゆとりと、笑いの絶えないホーム 看取りの介護まで」という独自の理念を掲げている。開設して5年目を迎え、ホームの姿勢は地域に伝わり着実に成果をあげている。言葉より活動でつながっているとの思いがあるが、今後、表現は検討してみたいとの意向がある。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	ホーム開設時に約2ヶ月間、地元住民の方々と会合の機会を持ち、運営への理解を働きかけている。パンフレットには重度の方の受け入れや、ターミナルケアへの支援を明示している。1ユニットに管理者を含め看護師4名の配置があり、理念の実践への取り組みは明確である。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域の方が、ホームの畑で野菜作りを手伝ってくれたり、ホームの犬を散歩に連れ出してくれる。町内会に加入し、草取りや清掃活動等の地域活動に入居者とともに参加していたが、現在は職員のみ参加となっている。散歩の際など地域の方々との自然な交流を大切にしている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	前回評価での提案事項として、アセスメントの充実があり、センター方式の導入を試みている。評価のみならず、サービスの向上へ向けての積極的な姿勢は伝わる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2、3ヶ月に1回、開催されている。入居者・家族の参加もあり、状況報告や行事の案内・報告、地域の独居高齢者についての提案等が行われている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム この葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	社会福祉協議会や行政からの研修案内を受け、情報を共有している。質問や相談等がある場合には連絡し、情報を得ている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、活用している方はいないが、資料を整備し研修等に参加するようにしている。必要となった場合には支援できるよう体制の整備に努めている。職員全員の理解を深めるためにも、研修の充実を検討しており、地域への情報発信等にも期待したい。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月の支払い時に家族の来訪があり、生活状況や健康状態を報告している。遠方の家族には手紙等にて報告している。事務所には行事ごとの写真が置いてあり、楽しそうな様子が伝わる。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	以前職員の名前がわかりにくいとの意見があり、名札を下げたケアに支障があり、玄関に写真と名前を掲示している。毎月の支払い時に来訪があり、その機会を活用して意見を聴けるように努めており、意見を運営推進会議につなげることもある。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	異動はほとんど行われていない。やむを得ず離職等が発生した場合には入居者へ説明を行い、引き継ぎ期間に配慮しながらダメージを防ぐよう努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員募集に年齢や性別は関係ない。介護職の役割・看護師の役割を、お互いに理解して協力しながらその能力を發揮できるよう努めている。向上心をもって働けるよう、資格取得への支援も行っている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム この葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	高齢者虐待防止や身体拘束についてのマニュアルを整備し、勉強会を実施している。資料等は用意されているが、記録の整備が求められる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	ミーティング等において勉強会が行なわれているが、記録の整備が求められる。		職員の経験や能力に応じた、段階的な学ぶ機会の確保が求められており、また情報を共有する仕組みも必要となります。今後の取り組みに期待します。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同法人の宅老所とはいつも連絡を取り合っている。同地区のグループホームとも交流があり、情報交換を行うようにしている。同地区には協議会や交流会はまだ行われていないが、今後の積極的な働きかけにも期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	自宅からの入居よりも、入院後独居生活に戻れない方の急な入居に対応している場合が多い。病院へ訪問して、本人・家族や病院関係者と面接をするようにしている。不穏状態での入居もあるが、寄り添うケアに努めていくうちに、落ち着かれる方が多い。入居後は1日でも早く馴染んでもらえるように、日々取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	病院から直接入居になった方も多く、不安定な心身の状態の中での日々の暮らしに寄り添ううちに「ありがとう」という言葉をもらい、感情を共有する場面もあった。重度化が進み、できなくなることも増えてくるが、共に協力して生活していける場となるよう努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム この葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居希望時からコミュニケーションが困難な方も多く、家族の意向だけでなく、本人の思いを把握できるよう取り組んでいる。入居者が本当は何を望んでいるかということを理解できるよう、これからも大切な課題として認識している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>退院後、直接入居するケースが多く、身体的な介護計画になりやすいが、徐々に生活歴等を聴きとり、その人らしい介護計画となるよう努めている。</p>		<p>介護記録からは入居者のその時の情景が理解しやすい記載がされている。ケアプランからはその記録との整合性が理解しにくい。ケアプランに認知症状へのケアを追加することで、ケアの着眼点も理解しやすいものになると考えます。一生懸命に取り組まれていることを文章として残されることに期待します。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>一応の期間は定めてあるが、変化に応じて随時見直しを行い、家族との話し合いや確認を行なっている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診介助は家族の負担軽減のためにも対応に努めている。敬老会は同法人で合同で行われており、にぎやかに過ごす時間がある。点滴やガーゼ交換、胃ろう、人工肛門処置等への対応があり、入院や転居をせずに生活を続けられる事がこのホームの一番の多機能性である</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>毎月2回の往診がある。重度化により、少しずつ往診医へ依頼することも増えてきた。皮膚科等への受診は家族へ依頼しているが、状況に応じて受診介助を行なっている。</p>		

グループホーム この葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	理念にも「看取りの介護まで」と示しており、管理者夫妻も含めた看護師の配置も多く、開設以来4名の方の看取りのケアが行われている。家族・医療関係者との連携により、話し合いを重ねながら、重度化・終末期への支援が行われている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	声かけや対応など、一人ひとりの誇りを損ねないよう努めている。個人名が記載されているファイルがすぐに目に付く場所にあり、対応が望まれる。		氏名が記載されたファイルが、すぐに目に付く場所にあるため、保管・管理に配慮が求められる。
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	コミュニケーションの困難な方のその人らしさを把握していくことが、これからも大切な課題であると捉えている。一緒に歩きながら寄り添い、手をつなごうとするその思いを理解できるよう、日々のケアに臨んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	テーブル拭きや食器洗い、野菜の下ごしらえなどに、力を発揮してもらっている。食事の介助が必要な方が多く、一緒に食事をすることはできないが、会話を楽しむ姿がある。それぞれの思い思いの場所で食事をしている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週に2回程度を目安に入浴している。体力等も観察しながら足浴や全身清拭・部分清拭などで対応している。本人の希望にあわせて入浴日を変更する等、柔軟に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム この葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	洗濯物をたたんでもらったり、新聞紙を折りたたんでもらったり、テーブル拭きや食器洗いなど、個々の力を発揮してもらっている。行事を企画して楽しみごとの支援を行っているが、一緒に寄り添いながら歩いたり、話したりといった時間を持つ事のほうが、生き活きとした表情になる。重度化が進む入居者の方々の楽しみや気晴らしを理解するためにも、行事を振り返る機会をつくっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	少しずつ外出支援は難しくなっているが、車椅子を利用して少しでも外気にふれられるよう努めている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中鍵をかけないケアを実践している。最近近隣で強盗侵入事件が発生し、防犯面での検討を行なっている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回の避難訓練を実施しており、消防署の協力・指導も受けている。運営推進会議を通じて、地域の方々の協力を働きかけているが、実現にはいたっていない。今後も継続した働きかけにより、より実践的な訓練の実施に期待したい。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	調理担当職員の配置があり、栄養バランスや個々の嗜好・状況に配慮された食事の提供が行なわれている。食事摂取量・水分摂取量を把握し、健康管理につなげている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム この葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	閑静な住宅街の中にあり、やわらかな自然光が入るよう工夫された共用空間では、静かな時間を過ごす事ができる。ピアノが置かれ、家族が演奏することもあった。対面式のキッチンからは、調理の際の匂いや音が伝わる、家庭的な空間がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	テレビや筆筒等、使い慣れた物が持ち込まれている方もいるが、大きなクローゼットが設置されており、歩行や車椅子利用に支障の無い様スペースが確保されている。介護用ベットが備え付けられているが、状況に応じて畳の上に布団を敷き、転落の危険性に配慮しながら自由な暮らしを支えている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			